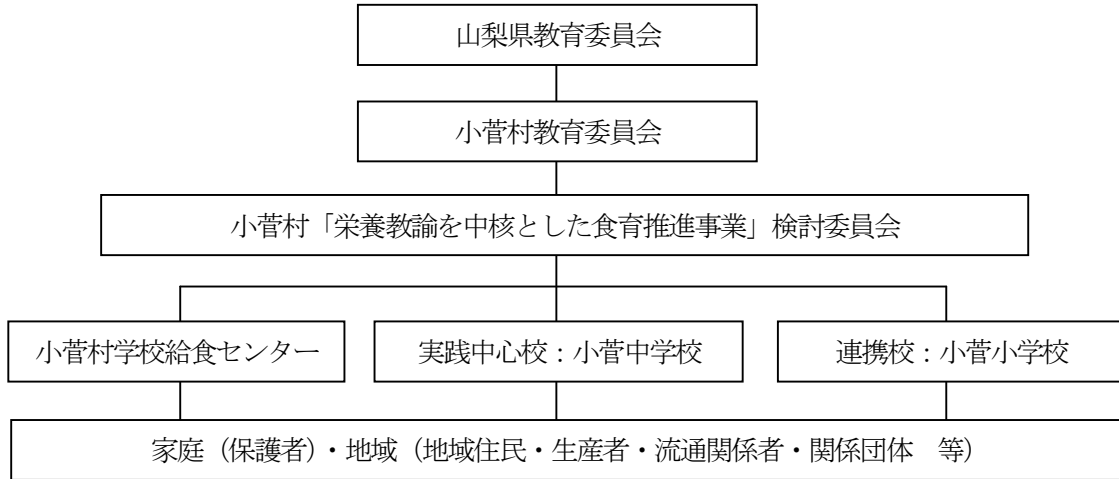


再委託先名

小菅村

1. 事業推進の体制



2. 事業内容

テーマ1 学校における食育授業推進のための取り組み

- (1) 食生活に関するアンケート調査の実施
 - 平成22年度児童生徒の食事状況等調査を参考に、7月23日、12月17日に実施。
- (2) 小学校・中学校における食育授業の実践
 - ① 校内研と連携した食育研究授業の実践
 - ・ 7月 6日 中学校2学年 道徳「ブタがいた教室」
 - ・ 11月19日 中学校3学年 学級活動「日本食の良さを知り、見直そう」
 - ・ 1月16日 中学校1学年 学級活動「楽しい食事とは何か、考えよう」



- ② 連携小学校の取り組み
 - ・ 小学校1学年 学級活動 「3つの国のものがたり」
 - ・ 小学校3学年 学級活動 「大豆はかせになろう」
 - ・ 小学校4学年 学級活動 「好き嫌いなく、何でも食べよう」
 - ・ 小学校4学年 保健体育 「すくすく育て わたしの体」
 - ・ 小学校6学年 学級活動 「すげのこ祭 手洗い指導」



- ・全校集会「早寝早起き朝ご飯キャラバン隊」
全校集会で「早寝早起き朝ご飯キャラバン隊」を招き、食育紙芝居や食育クイズをし、楽しい時間を過ごした。当日の様子を食育だよりで紹介した。



(3) 生徒会活動における食育推進の取り組み

- ① 給食委員会の活動を通しての食育推進
毎月の給食目標に合わせて、活動内容を決め、活動した。
 - ・カルシウムを摂ろう
 - ・感謝して食べよう
 - ・風邪を予防しよう
 - ・食事マナーに気を付けよう
 - ・衛生的に配膳しよう
 - など・・・



- ② 小中合同の縦割り給食の実施

- ・5月(あおば給食), 11月(もみじ給食)に小中学校合同での給食会を実施した。のし紙の裏には、給食委員会が考えたクイズを印刷した。



- ③ 学園祭展示における食育発表

- わが家のおすすめレシピの展示
「わが家のおすすめレシピ」を応募し、学園祭で展示した。



- ④ 給食委員会集会

- 2月1日に、全校生徒、教職員で「郷土食」をテーマに委員会集会を開催した。

(4) 学校行事における食に関する取り組み

- ・強歩大会に向けての食に関する指導

10月16日に全校生徒を対象に、栄養と運動について学習し、大会当日までの5日間、朝食、夕食の献立名と使われている食品を6つの基礎食品群に分け、栄養バランスをチェックした。最終日には家庭からもコメントをもらい、家庭と連携することができた。



テーマ2 学校給食を活用した食に関する指導充実のための取り組み

(1) 給食時間の充実

- ① 献立と食材の紹介、マナー、当月の目標の提示等
ランチルーム入口やランチルーム内の掲示板を使い、食材の紹介、給食目標を掲示した。



- ② 調理員さんと一緒に会食する誕生日給食の実施

毎月の誕生日給食では、座席を学年関係なく入れ替え、調理員も一緒に給食を食べる。年に1度、全校生徒と教職員より調理員へ感謝の手紙を贈る。調理員も自分が作った給食を生徒と一緒に食べることで、仕事への意欲向上につながった。

(2) 地場産物の学校給食への活用

- 地場産物を使った料理の考案と献立への活用

- ・5月1日 わらび採り集会の実施

わらびが採れる土地の所有者の方を講師に全校でわらび採りをし、次の日の給食で「わらびの炒め煮」として使用した。



・10月24日 まこもたけ収穫体験

まこもたけは、4年ほど前から小菅村源流百姓の会で栽培している作物である。3メートル以上あるまこもたけの葉をかき分けながら、泥だらけになって収穫した。収穫後の感想文では、生産者の思いを知り、まこもたけで小菅村がもっと元気になってほしいという感想があった。収穫後に水洗いをしながら可食部を切りそろえ、次の日の給食に「まこもたけのみそ汁」として使用した。



・「小菅の恵みやまめ給食」の実施

小菅村は、やまめの養殖の発祥の地とされており、たくさんの養魚場がある。給食で、年に1回程度、「小菅の恵みやまめ給食」と題し、やまめを調理する。やまめを唐揚げにすると、頭からしっぽまで食べることができ、どの生徒も完食した。



(3) 給食に対する興味・関心を高める活動

・給食関係の掲示板、展示コーナーの設置と工夫

山梨県に関することや、旬の食材についての掲示物、体験できるコーナーを設けた。



・季節や行事にあったランチルームの飾り付け

梅雨の季節、クリスマスなど、季節や行事に合ったランチルームの飾り付けをした。クリスマス給食の日には、給食係はサンタの帽子をかぶって盛り付けをする。



(4) 学校給食をより充実させるための研究

○ 旬の食材や行事食、郷土食の考案・実施

・「いろいろなりんご」

9月から12月にかけて6種類のりんごを提供しました。1つ多く発注し、ランチルームに掲示し、名前と特徴を紹介した。生徒は手に取り、色や形、香り、歯触りなどの違いを比べていた。

・「つながろう日本！きずな給食」

全国の郷土料理を実施した。

5月：宮城県「はっと汁」

6月：熊本県「びりん飯」

10月：埼玉県「かて飯、ゼリーフライ」

11月：山梨県「南瓜ほうとう、せいだのたまじ」

1月：長野県「キムタクご飯」

2月：青森県「せんべい汁」



テーマ3

学校・家庭・地域が連携した食育推進のための取り組み

(1) 給食試食会の開催

① 保護者を対象とした試食会

小学校：6月 中学校：11月に実施した

② 教育委員を対象とした試食会(6月, 11月)

地教委訪問に併せ、教育委員が子どもたちと給食と一緒に食べ、学校給食への理解を深めた。



③ 地域住民を対象とした試食会

地域の方からも給食を食べたいという要望が多く寄せられ、今年、初めて、地域住民を対象とした試食会を開催した。試食会後には、懇談会を開催し、今年度実践した食育について、報告し、意見交換をした。

(2) 調理講習会の開催

中学校給食試食会後に、保護者を対象とした料理教室を実施している。今年のテーマは、「カルシウムたっぷり献立」とし、家庭でも簡単に作れる献立を紹介した。



(3) 給食レシピの作成と配布

給食の献立の中から20品程度選び、レシピ集を作成した。主食・主菜・副菜・汁物が分類できるように、四つ葉のクローバーに色を付ける工夫をした。

(4) 食育に関する講演会の開催

9月28日(金) 東海大学体育学部 小澤治夫先生

演題「学力・体力・気力の向上は、生活習慣の立て直しから」

全校生徒も聴講し、保護者、地域住民も多数参加した。

食育展示コーナーを設け、学校における食育の実態を見てもらった。



(5) 保育所における食育の実践

保育所、小学校、中学校の連携の一環として、保育所で食育を行った。厚生労働省「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」にそって、あか・き・みどりの仲間の食べ物、食事マナー、食べものカルタについて指導した。指導後は給食の様子も見学させていただき、食事マナーの確認もした。



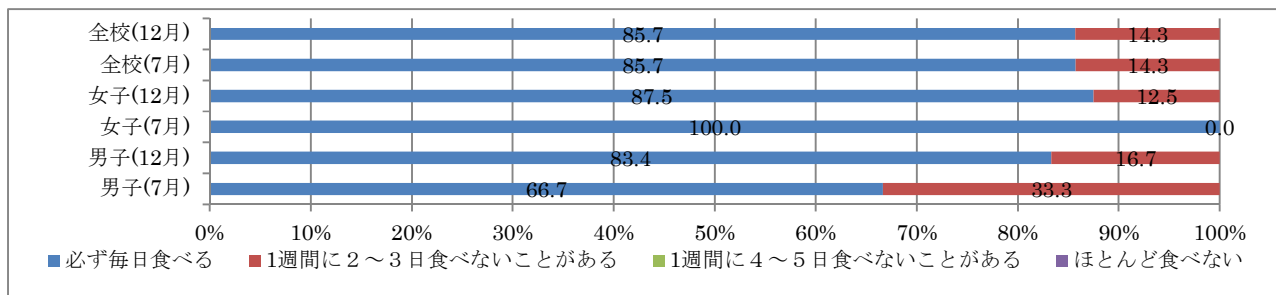
テーマ1～3に共通する具体的計画

〈7月、12月実施の食生活に関するアンケートより〉

- ・ 給食が「嫌い」「大嫌い」と答える生徒はなく、「大好き」と答える生徒が増えた。(4人→7人)
- ・ 「好き嫌いをしない」と答える生徒が増えた。(5人→10人)
- ・ 朝ご飯を必ず毎日食べると答える生徒が男子で増えた。(4人→6人)
- ・ 10個の食品を6つの基礎食品群に分ける問では、より多く正解する生徒が増えた。(6～10問正解者：4人→7人)
- ・ 自分が料理を作ったり、手伝ったりしているときが楽しいと感じる生徒が多い。(9人)
- ・ 家で食事の手伝いをしている生徒が多く、7月より12月の方が、手伝いの数が増加した。

本事業における評価指標と考察

① 朝食欠食率 (調査対象：全校生徒 男子6人 女子8人 計14人)



「1週間に4～5日食べないことがある」、「ほとんど食べない」と答えた生徒はいなかった。男子で、「必ず毎日食べる」と答える生徒が増えた。

② 地場産物活用率 15.9%(4月)→14.4%(2月)

4年前から地場産物の調整をしてくれているグループがあるが、今年は、組織の在り方の見直しをするため、納品を中止したいと申し入れがあり、小菅村の地場産物の納品ができなくなってしまった。そのため、7月以降は小菅村の地場産物の使用がほぼなくなった。

③ 残食率 0.1% 年間を通して、残食は、ほとんどない。

本事業の成果

〈校内研究として〉

- ・ 研究主題を見定めた様々な取り組みにより、そのねらいに迫る研究をすることができた。特に、具体的な指導の共通理解と指導主事を招いた授業研究会での研究が有効であった。
- ・ 栄養教諭が行う授業や資料提供などにより、食に対する指導の観点が明確になり、食についての認識を深め、生徒の意識を深める指導ができた。
- ・ 食育講演会や様々な体験活動の感想文や発表活動を通して、表現力を育成できた。
- ・ 食について生徒が自発的に意識できるようになり、生徒同士でマナー等について声を掛け合うことができた。

〈事業全体として〉

- ・ 全体計画と年間指導計画に沿った指導により、概ねそのねらいが達成できた。
- ・ 学校・家庭・地域の食育に対する意識が向上した。
- ・ 校内研究会や職員会議・職員室等の会話から、情報を交換し職員の課題の共有や指導の連携が図れた。
- ・ 特に、効果的だった食育推進事業としては、研究授業・村民試食会・給食委員会活動・講演会・給食指導などで多くの成果があげられた。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- ・ 食育について理解を深める継続した研究や「食育」と教科・他の活動との関連性・有効性をさらに深めていきたい。
- ・ 今年度の成果を基盤とし、次年度以降も引き続き実践していきたい。
- ・ 生徒の食育資料保存用の『食育ファイル』を活用するとさらに効果的だった。
- ・ 地場産物の活用において、生産者との懇談会を開催したが、話し合いだけで終わり、地場産物活用までに至らなかった。